

# TRUST SOMETHING

written by HADEYA

## 1

カ石徹は死んだ。矢吹ジョーが殺した。俺が殺した。  
リングの上でカ石は死んだ。拳で語り合った唯一の理解者。  
俺は彷徨う。夜のストリートを。虚ろな眼差しで、どこかを彷徨う。  
心の奥底で、もう一度、感じたいと願っている。  
俺が俺である理由を。激しく信じる何かを。

信じるに値する〈何か〉を。

## 2

お前の小説は表現力がないよ———良く言われる、さ。  
人は知らない。誰も知らない。俺の作品が夜空に瞬く閃光である事を。  
光———それは活殺のイナズマ。  
俺の名はハデヤ。ニックネームは、明日のジョー。

ベアナックル・ファイトの.....天才の中の〈天才〉だ。

## 3

殴られた。半端な力で。路地裏で這い蹲る。  
血反吐を吐きながら、ヘラヘラ笑う。  
連中みたく.....日雇いのチンピラみたく。  
9番アイアンで殴られ、意識が飛んだ。

今、俺は.....海を漂っている。それでも何も感じない。  
感じたいと願っている。熱狂を。

信じるに値する〈何か〉を。

#### 4

枯渇の味がする。自分が自分でなくなる感じ。  
この無力感。暗い海を漂い、流される感じ。  
心地良くない。心地悪くもない。  
身を委ね、どこまでも流される。  
どこまでも。どこまでも流される。  
やがて沈んだ。地へ。  
仰向けに倒れ、ただ目を開けている。

どうでにでもなりやがれ。

#### 5

誰もいない無人のスタジアム。魚のいない海底で。  
時間だけが刻一刻と過ぎて行く。  
緩やかに、無情に過ぎて行く。  
俺は見る。かつての日々を。かつての自分を。  
泥塗れの青春と、脳内でスパークする純白のストロボ。  
遠い日々。今となっては懐かしい。  
ドン詰まりの路地裏で拝んだ、俺自身の、何か。

何か——至る所に浮遊する……俺自身の……信仰心。

#### 6

リングの上で力石は死んだ。拳で語り合った唯一の理解者。  
理解者はもういない。俺は探し、求めてる。光の届かぬ海底で。  
俺自身の〈神〉を。  
自分の存在理由を考える。言える事は一つ——

俺は俺しか信じないし、信じられない。  
その事実を否定できない。  
否定させないし、する奴がいたら倒す。

それだけ、だ。

## 7

お前はその孤独を知ってるか。その苦悩を知ってるか。  
俺は知っている。社会の最底辺の味を。そこに生きる意味を。  
野良犬と呼ばれ、誰からも相手にされない。  
人は言う。お前は奴隷だ、と。最低のクズだ、と。

まるで鏡を見ているようだ。  
連中はやって来る。様々な武器を手に。  
吹き溜まりの俺の家を取り囲む。大勢で。

「お前、ムカつくんだよ」  
奴が言った。高柳とか言う野郎だった。  
威圧的な態度で俺を見る。その目は怒りに燃えている。

俺は冷静だ。頭の中で相手が何人か数える。  
同時にコンピュータが計算を始める。  
そして完璧な角度を捉える。

たった今、捉えた——路地裏で。這い蹲りながら。  
連中は笑っている。ヘラヘラと。日雇いのチンピラみたく。

## 8

高柳は9番アイアンを振り翳した。  
叫びながら飛び掛かった。  
脳内で白いストロボが弾ける。高柳の横面をブン殴った。  
白いストロボがスパークする。

馬乗りになって、殴り続ける。渾身の力で殴り続ける。  
気付けば、高柳は動かない。  
詐欺に慣れたボクシング野郎が背後から俺を抑え、喚き散らす。

手前、何しやがる！！

そのまま背後の壁へボクシング野郎を打ち付ける。  
左手で顔を掴み、アスファルトへ脳天を叩き付ける。何度も、何度も。

俺は得る。イナズマを。  
俺は知る。自分自身の存在理由を。  
俺は〈野獣〉と化す。  
輝き、熱狂し、生きている事の実感を知る。

立ち上がり、残党を睨み付ける。  
そして俺は取り戻す。内なる殺し屋を。

俺の名は、ジョー。派手にKILL ME、派手にKILL YOU。  
俺は告げる——

掛けて来いよ……

**さっさと掛けて来いよ！ 手前等、皆殺しだ！**

## 9

連中が逃げて行く。俺は逃がさない。  
背後から首根っこを掴み、力任せに引っ張る。  
ペテン師の目を見た。その目は懇願しているのを俺は見破る。  
命だけは助けてくれ、と。  
目を見ながら俺は言う。醒めた口調で。俺自身の言葉で。

楽しませろよ。もっと、もっと楽しませろよ。

## 10

サディスティックな欲望がが込み上げる。  
懸命に自制する。そこへパトカーが駆け付ける。  
「止めなさい！ 人質を離しなさい！」  
「うるせえ！」  
連中が一斉に襲い掛かる。俺の中で何かが弾ける。  
粗野で、獰猛で、野蛮な〈何か〉が。

俺は知る。自分が何者か。  
俺は——

たった一人のオンリーワン。  
天才の中の天才。  
至る所に存在する純粋なエネルギー。炸裂するイナズマ。

同時に、神。

## 11

調べを受けた。俺の名は9番。  
留置場で夜を明かす。孤独な夜を明かす。

どん底で見た。  
目を。俺と同じ色をした目……カ石徹の目を。

カ石が俺に襲い掛かる。リングの上で。  
殴られ、殴り返し——

## 12

カ石が膝を付いた。レフェリーが割って入る。  
俺は見降ろしている——キングを。  
ありったけの喧噪が俺を包む。  
俺は想う。きっと彼女も俺を想っているのだろう。

見果てぬ未来に至福を感じる。  
真っ白に燃え尽き、明日を迎える。

俺の名は、ジョー。  
腕っぷしでは誰にも負けない真の天才。

——君は今、何を見た？(了)

キリミハデヤ

hadeyakirimi@gmail.com

81-080-9832-0574

モリカワ ケンタロウ 口座番号

三井住友銀行(店番号232) 普通口座 口座番号:7342872